

## **第2章 障害者の状況**

## 第2章 障害者の状況

### 1 障害者数

平成28年度末現在、身体障害者手帳の交付を受けている人は6,566人、愛の手帳（東京都療育手帳）の交付を受けている人は934人、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている人は1,440人です。

#### (1) 身体障害者手帳所持者の状況

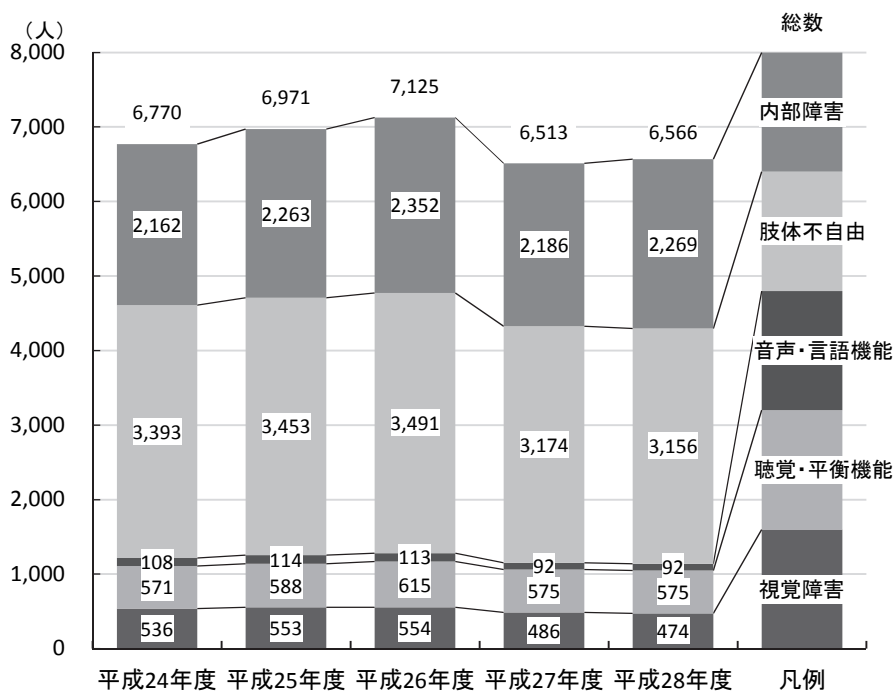
身体障害者手帳所持者の平成28年度末の状況は、肢体不自由が48.0%、内部障害が34.6%で、全体の8割以上と、身体障害者手帳所持者の大部分を占めています。

#### ○身体障害者手帳所持者の状況（平成28年度）

区分	総数	視覚障害	聴覚・平衡機能障害	音声・言語機能障害	肢体不自由	内部障害
総数（人）	6,566	474	575	92	3,156	2,269
構成比（%）	100	7.2	8.8	1.4	48.0	34.6
障害児（人）	126	7	22	1	75	21
障害者（人）	6,440	467	553	91	3,081	2,248

（台東区行政資料集 平成28年度末現在）

#### ○身体障害者手帳所持者数の区分ごとの推移



※重複障害がある場合は最重度の障害のみを計上（台東区行政資料集 各年度末現在）

## (2) 愛の手帳（東京都療育手帳）所持者の状況

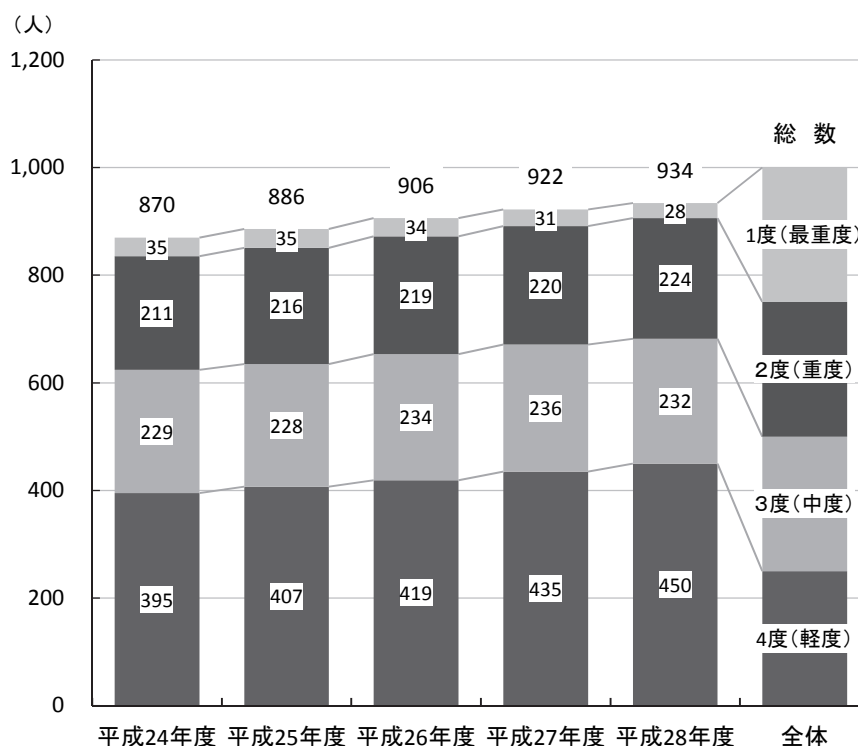
愛の手帳（東京都療育手帳）所持者の平成28年度末の状況は、毎年、十数人単位での増加が続いており、平成24年度と比較して64人増加しています。区分ごとにみると、1度（最重度）から3度（中度）までは大きな増加はみられないものの、4度（軽度）は平成24年度と比較して55人の増加となっています。

### ○愛の手帳（東京都療育手帳）所持者の状況（平成28年度）

区 分	総 数	1 度（最重度）	2 度（重度）	3 度（中度）	4 度（軽度）
総 数（人）	934	28	224	232	450
構成比（％）	100	3.0	24.0	24.8	48.2
障害児（人）	167	2	44	44	77
障害者（人） （18～64歳）	638	22	158	145	313
障害者（人） （65歳以上）	129	4	22	43	60

（台東区行政資料集及び障害福祉課調べ 平成28年度末現在）

### ○愛の手帳（東京都療育手帳）所持者数の区分ごとの推移



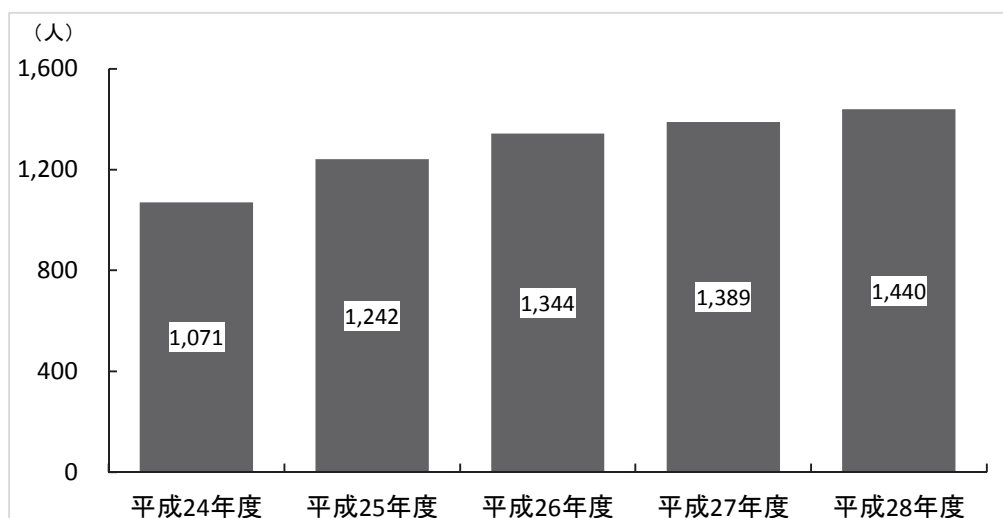
（台東区行政資料集 各年度末現在）

### (3) 精神障害者保健福祉手帳所持者等の状況

#### ①精神障害者保健福祉手帳所持者数

精神障害者保健福祉手帳所持者の平成 28 年度末の状況は、平成 24 年度からは 369 人の増加となり、1.3 倍以上の高い伸びがみられます。

#### ○精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

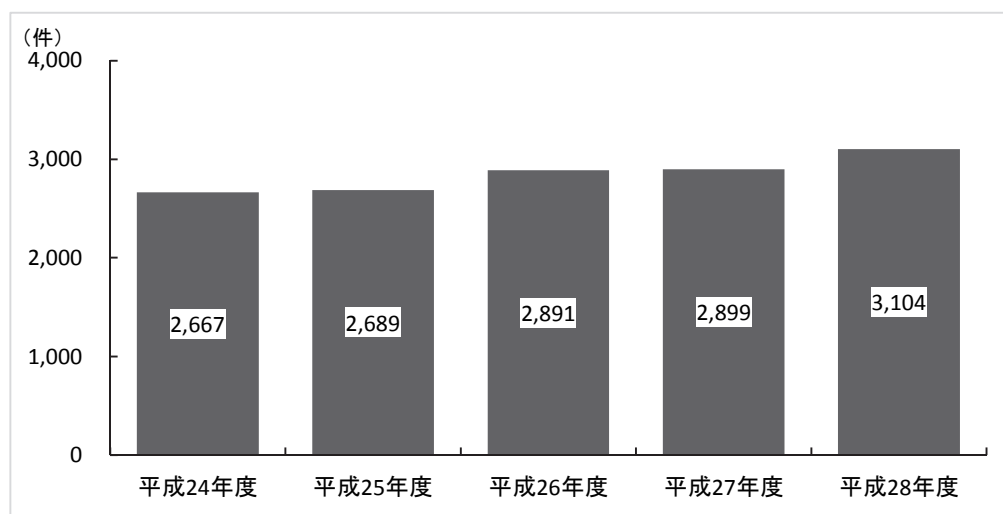


(保健所事業概要 各年度末現在)

#### ②自立支援医療受給者証（精神通院）所持者数

自立支援医療受給者証（精神通院）所持者の平成 28 年度末の状況は 3,104 人となっており、平成 24 年度からは 437 人の増加となっています。

#### ○自立支援医療受給者証（精神通院）所持者数の推移

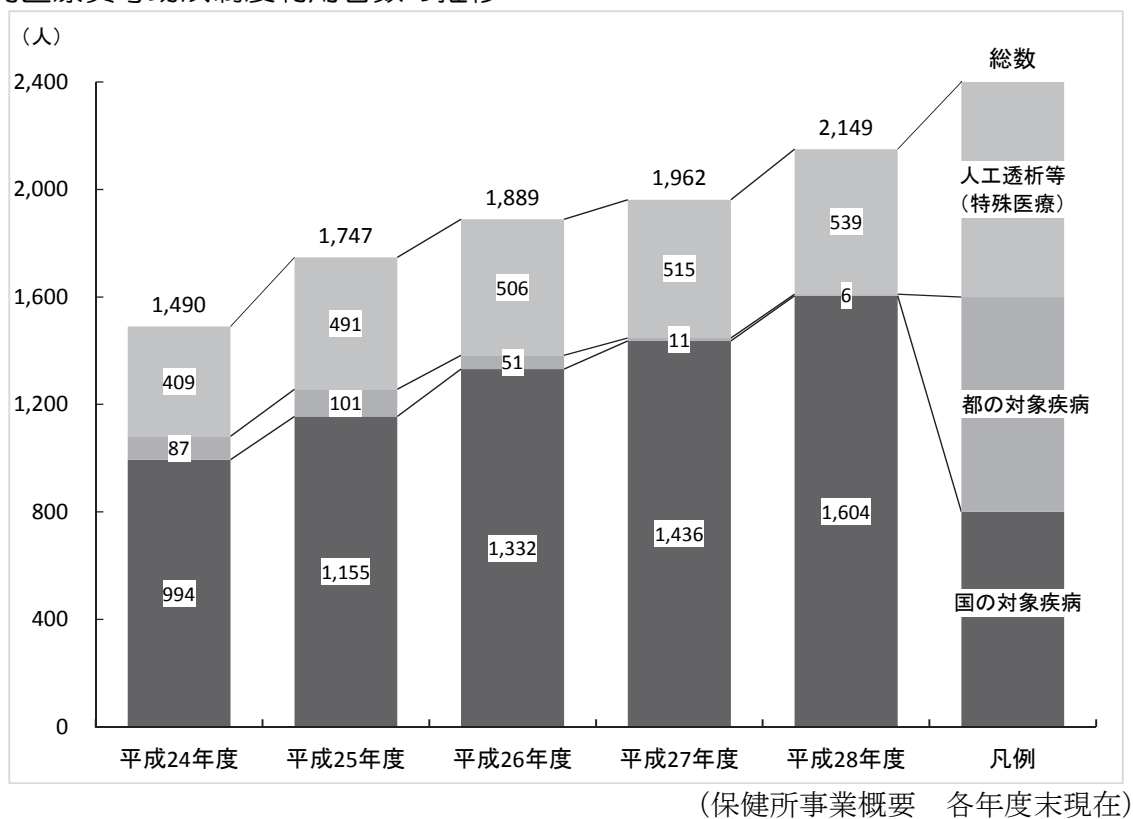


(保健所事業概要 各年度末現在)

### ③難病医療費等助成制度利用者数

平成 25 年 4 月施行の「障害者総合支援法」から、難病患者等が障害者の範囲に加わっています。「東京都難病医療費等助成制度」により国の補助対象 330 疾病、都の単独指定 8 疾病について医療費の公費負担を行っています。平成 28 年度末の利用状況は 2,149 人となっており、平成 24 年度からは 659 人の増加となっています。

### ○難病医療費等助成制度利用者数の推移



## 2 障害者施策の利用状況

### (1) 在宅サービスの状況

#### ①居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護

(単位：時間)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
身体・知的	106,735	118,745	120,939	121,323	123,802
精神	2,182	2,112	2,267	2,206	3,008
難病	376.5	347	417.25	364.5	377.5

※「難病」の平成24年度までの数値は、難病患者等ホームヘルプサービス事業の実績  
(身体・知的：台東区行政資料集、精神・難病：保健所事業概要 各年度末現在)

#### ②移動支援

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
身体	利用時間(時間)	7,637	2,347	2,968	3,443	3,445
	利用者数(人)	47	24	24	32	28
知的	利用時間(時間)	9,743	11,279	11,634	13,998	14,954
	利用者数(人)	76	87	87	104	108
児童	利用時間(時間)	6,952	6,092	5,622	5,550	4,632
	利用者数(人)	66	56	52	49	42
精神	利用時間(時間)	487	445	362	308	447
	利用者数(人)	9	12	7	11	12
難病	利用時間(時間)	—	25	32	34	34
	利用者数(人)	—	1	1	1	1

(障害福祉課、保健予防課調べ 各年度末現在)

#### ③通学支援

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
利用時間(時間)	7,454	7,344	4,303	5,499	5,193
利用者数(人)	53	59	47	54	54

(障害福祉課調べ 各年度末現在)

④短期入所(ショートステイ)

		24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
身体・知的	利用者数(人)	3,123	3,219	3,268	3,267	4,074
	利用日数(日)	56	62	55	59	73
児童	利用者数(人)	525	469	582	379	411
	利用日数(日)	16	19	17	12	19
精神	利用者数(人)	1	0	0	2	2
	利用日数(日)	4	0	0	78	76

(身体・知的：台東区行政資料集、児童：台東区行政資料集、精神：保健所事業概要 各年度末現在)

⑤日中一時支援

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
利用回数(回)	586	1,032	443	245	313
利用者数(人)	30	26	32	28	21

(障害福祉課調べ 各年度末現在)

⑥緊急一時保護

(単位：件)

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
1 単位 (4 時間)	238	312	255	154	106
2 単位 (4-8 時間)	86	112	114	90	73
1 日	46	59	49	49	66

※区独自事業：ほおずきの家等 2 床、りんご村 1 床

(障害福祉課調べ 各年度末現在)

(2) 日中サービスの状況

①身体・知的障害者の利用サービス

(単位：人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
就労移行支援	8	14	23	17	15
就労継続支援A型	4	4	6	8	10
就労継続支援B型	114	128	137	134	142
生活介護	102	103	113	110	117
自立訓練	9	3	4	3	3

(台東区行政資料集 各年度末現在)

②精神障害者の利用サービス

(単位：人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
就労移行支援	26	32	39	52	55
就労継続支援A型	16	20	16	17	19
就労継続支援B型	76	89	90	97	102
生活介護	16	14	15	11	11
自立訓練	10	26	23	33	41

(台東区行政資料集 各年度末現在)

③障害児の利用サービス

(単位：人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
児童発達支援	100	110	123	126	129
医療型児童発達支援	1	1	2	2	2
放課後等デイサービス	21	59	91	139	155
保育所等訪問支援	0	0	0	0	1

(台東区行政資料集、障害福祉課及び保健予防課調べ 各年度末現在)



(3) 施設の利用状況

①松が谷福祉会館（成人）の利用状況

○通所者数

(単位：人)

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
障害者デイサービス	男	10	10	9	10	9
	女	4	5	6	6	6
	計	14	15	15	16	15
機能訓練室	男	9	9	9	10	9
	女	6	6	6	7	8
	計	15	15	15	17	17
合 計	男	19	19	18	20	18
	女	10	11	12	13	14
	計	29	30	30	33	32

(台東区行政資料集 各年度末現在)

○通所者の利用状況

(単位：件)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
障害者デイサービス	3,161	3,218	3,150	3,439	3,374
機能訓練室	1,847	1,853	1,983	2,075	2,081

(台東区行政資料集 各年度末現在)

○障害者自立支援センター相談件数

(単位：件)

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
ピアカウンセリング		9	7	8	8	12
一 般 相 談	利用援助	1,745	1,728	2,629	3,867	3,983
	社会資源	1,100	547	245	711	449
	社会生活力	389	482	277	547	410
	小 計	3,234	2,757	3,151	5,125	4,842
合 計		3,243	2,764	3,159	5,133	4,854

(台東区行政資料集 各年度末現在)

## ②精神障害者地域生活支援センターあさがおの利用状況

### ○生活相談件数

(単位：件)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
調整	2,048	1,904	1,404	1,414	1,297
電話	2,927	2,659	3,106	3,499	3,322
面接	1,153	1,094	919	961	994
ピアカウンセリング	47	28	29	19	16
訪問同行活動	230	173	185	289	216
ケースカンファレンス	119	104	59	56	61
合計	6,524	5,962	5,702	6,238	5,906

(台東保健所調べ 各年度末現在)

### ○あさがお指定相談件数

(単位：件)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
調整	2,884	3,023	3,006	2,722	2,506
訪問同行活動	532	586	505	575	408
（うち、モニタリング）	206	181	183	202	358
ケースカンファレンス	98	111	90	85	89
（うち、担当者会議）	98	111	90	85	89
電話	1,822	1,953	1,969	1,933	2,011
面接	321	268	363	428	385
合計	5,657	5,941	5,933	5,743	5,399

(台東保健所調べ 各年度末現在)

### ○年間延べ利用者数

年間延べ利用者数（人）	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	5,533	4,462	4,397	4,381	4,736

(台東保健所調べ 各年度末現在)

### ③精神保健福祉相談件数（こころの健康相談）

(単位：件)

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
医師	訪問・面接等	116	121	70	91	78
保健師	訪問	754	762	779	843	806
	面接・電話等	2,859	3,306	2,975	3,022	5,136

※医師の相談は予約制(保健所事業概要 各年度末現在)

④精神障害者社会復帰相談事業（デイケア）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実施状況	回数（回）	99	98	97	97	98
	実人数（人）	22	22	21	23	23
	延人数（人）	831	834	691	653	482
年度末の 利用状況 （人）	見学のみ	5	4	3	2	4
	継続	14	9	14	11	7
	終了	3	6	5	10	12

（保健所事業概要 各年度末現在）

⑤発達障害個別相談件数

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
発達障害個別相談件数（件）	12	16	20	14	26

（保健予防課調べ 各年度末現在）

⑥虐待相談件数

○平成 26 年度

(単位：件)

相談・通報・届出									認定 件数	備考
虐待者	虐待内容						(分類不可) その他	計		
	身体的	性的	心理的	放棄・放任	経済的	小計				
養護者	1					1		1	0	知的障害者 1 件
施設従事者等	1					1		1	0	知的障害者 1 件
使用者						0		0	0	
その他 (分類不可)						0		0	0	
合計	2	0	0	0	0	2	0	2	0	

(障害福祉課調べ 年度末現在)

○平成 27 年度

(単位：件)

相談・通報・届出									認定 件数	備考
虐待者	虐待内容						(分類不可) その他	計		
	身体的	性的	心理的	放棄・放任	経済的	小計				
養護者						0		0	0	
施設従事者等	1		1			2		2	1	知的障害者 1 件
使用者	1		1			2		2	1	精神障害者 1 件
その他 (分類不可)						0		0	0	
合計	2	0	2	0	0	4	0	4	2	

(障害福祉課調べ 年度末現在)

※平成 28 年度については、虐待相談件数はなし。

⑦障害者差別に係る相談件数

○平成 28 年度

(単位:件)

類型	相談 件数	内訳		障害者差別と判断した件数の障害の種別									備考	
		該当	非該当	視 覚	聴 覚	肢 体	内 部	知 的	精 神	発 達	難 病	そ の 他		
行政 機 関 等	不当な差別 的取扱い	1	1											
	合理的配慮 の不提供	5	5											
事 業 者	不当な差別 的取扱い	0												
	合理的配慮 の不提供	3	3			3								
小計		9	3	6	0	0	3	0	0	0	0	0	0	
その他		0												
合計		9	3	6	0	0	3	0	0	0	0	0	0	

(障害福祉課調べ 年度末現在)

⑧施設一覧

施設名	サービス	開設年度	現員/定員
松が谷福祉会館	児童発達支援	昭和50年度	1日30人
	放課後等デイサービス		1日10人
	生活介護		15人/20人
	地域活動支援センター（機能訓練）		登録者17人
	障害者自立支援センター		-
	就労支援室		登録者255人
つばさ福祉工房	生活介護	平成6年度	26人/28人
あひるの家	脳卒中等中途障害者作業所	平成8年度	7人/10人
こばと園	心臓病児対象通所訓練施設	昭和51年度	15人/-人
フロム千束	福祉ホーム	平成6年度	入居9人/9人
			体験2人/2人
アポロ	重度身体障害者グループホーム	平成13年度	4人/4人
りんご村	宿泊訓練等	昭和62年度	13人/-人
地域生活支援センター ささら	生活介護	平成21年度	18人/20人
ぐるーぷポテト	宿泊訓練等	平成2年度	18人/-人
障害者支援施設 浅草ほうらい	施設入所支援	平成22年度	30人/30人
	生活介護		48人/40人
	自立訓練（生活訓練）		0人/10人
	日中一時支援		-/5人
	短期入所（ショートステイ）		-/10人
こうめ	就労継続支援A型	平成26年度	35人/20人
HOPE		平成28年度	2人/15人
たいとう福祉作業所	就労継続支援B型	昭和55年度	20人/20人
たいとう第二福祉作業所		昭和60年度	20人/20人
たいとう第三福祉作業所		平成3年度	20人/20人
たいとう第四福祉作業所		平成6年度	21人/20人
ラムダ		平成24年度	20人/20人
おあしす 今戸ユニット		平成25年度	6人/10人
おあしす 清川ユニット		平成26年度	5人/10人
たいとう寮		知的障害者グループホーム 短期入所（ショートステイ）	平成13年度

施設名	サービス	開設年度	現員/定員
松葉寮	知的障害者グループホーム	昭和62年度	4人/4人
元浅寮		平成3年度	4人/4人
いずみ寮		平成6年度	4人/4人
千草寮		平成9年度	4人/4人
みすじ寮		平成17年度	4人/4人
浅草橋寮		平成20年度	4人/4人
クローバー		平成18年度	4人/4人
リーフ		平成20年度	4人/4人
コットン		平成23年度	4人/4人
柳北ほうらい		平成23年度	4人/4人
今戸ほうらい		平成25年度	6人/6人
精神障害者地域生活支援センター あさがお		相談支援事業 地域活動支援センター	平成17年度
耕房“輝”	地域活動支援センター	平成7年度	20人/20人
たいとう倶楽部		平成5年度	19人/20人
耕房“光”	就労継続支援B型	昭和63年度	20人/30人
かれん		平成3年度	20人/20人
RECOVERY		平成28年度	12人/20人
3B 実用芸術研究所		平成28年度	13人/20人
さら就労塾@ほれぽれ/秋葉原	就労移行支援	平成23年度	20人/20人
シゴトライ台東		平成23年度	26人/30人
リファイン就労支援センター		平成25年度	20人/60人
ありがとう		平成26年度	13人/20人
フロンティアチャレンジ上野 キャリアセンター		平成27年度	21人/20人
SAKURA 上野センター		平成28年度	1人/20人
すてっぴ つばさ	就労継続支援B型	平成28年度	2人/14人 2人/6人
こすもす浅草橋	就労移行支援	平成27年度	11人/10人 1人/10人
ダルク・セカンドチャンス	生活介護 自立訓練	平成24年度	5人/6人 14人/14人
第1チェリーハウス	通過型グループホーム	平成8年度	5人/7人
第2チェリーハウス		平成14年度	6人/6人
第3チェリーハウス		平成21年度	3人/5人

施設名	サービス	開設年度	現員/定員
結ぶる美谷東京	放課後等デイサービス 児童発達支援	平成24年度	47人/10人
コラゾン浅草橋		平成26年度	21人/10人
コラゾン台東		平成24年度	34人/10人
ユニゾン上野		平成28年度	17人/10人
スマートキッズプラス南千住	放課後等デイサービス	平成25年度	33人/10人
スマートキッズジュニア元浅草		平成26年度	22人/10人
つばさ放課後クラブ		平成26年度	29人/20人
オアソ子供クラブ		平成28年度	16人/10人
STEP浅草		平成28年度	16人/10人
ほおずきの家	放課後活動等	昭和63年度	12人/-人

(障害福祉課・保健予防課調べ 平成28年度末現在)



(4) 療育・保育・教育の状況

①療育の状況（松が谷福祉会館こども療育室）

○通所児の数

(単位：人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
男	95	104	100	98	96
女	26	25	28	27	34
合計	121	129	128	125	130

(台東区行政資料集 各年度末現在)

○通所件数

(単位：件)

通所件数	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	5,523	5,451	5,523	5,886	5,805

(台東区行政資料集 各年度末現在)

○就園就学状況

(単位：人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
未就園	11	13	15	10	11
私立保育園	12	13	13	8	7
公立保育園	18	16	15	27	22
私立幼稚園	24	21	19	17	22
公立幼稚園	33	37	37	41	38
こども園	3	10	12	12	15
認証保育所等	2	2	4	1	1
小学校	18	17	13	9	14
合計	121	129	128	125	130

(松が谷福祉会館調べ 各年度末現在)

## ○進学先

(単位：人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
筑波大附属大塚特別支援学校	0	0	1	1	0
都立墨東特別支援学校	3	1	2	1	1
都立墨田特別支援学校	1	3	9	7	3
特別支援学級	5	12	2	2	3
通常学級	27	19	23	27	33
合 計	36	35	37	38	40

(松が谷福祉会館調べ 各年度末現在)

## ○相談利用児数

(単位：人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
男	123	137	140	124	170
女	35	43	47	57	70
合 計	158	180	187	181	240

(松が谷福祉会館調べ 各年度末現在)

## ○相談件数

(単位：件)

相談件数	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	1,938	2,110	2,083	2,037	2,347

(台東区行政資料集 各年度末現在)

## ○発達障害児巡回訪問相談件数

(単位：件)

巡回訪問相談件数	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	192	236	256	261	318

(台東区行政資料集 各年度末現在)

## ②教育相談連携訪問回数

(単位：回)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
幼稚園・保育園・ こども園	12	6	8	17	11
小学校	12	19	19	16	18
中学校	4	6	7	7	6
合 計	28	31	34	40	35

(台東区行政資料集 各年度末現在)

③障害児の保育所利用者数

(単位：人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
身体	16	15	10	14	15
知的	72	68	79	60	74
その他	0	1	0	0	0

(台東区行政資料集 各年度末現在)

④障害児のこどもクラブ利用者数

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
こどもクラブ数(箇所)	21	22	22	23	23
(うち、障害児を受け入れている クラブ数)(箇所)	15	18	14	17	16
利用者数(人)	33	36	41	49	44

(教育委員会調べ 各年度4月1日現在)

⑤就学相談の状況

(単位：件)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
小学校	18	27	33	31	36
中学校	12	13	14	21	8
合計	30	40	47	52	44

(教育委員会調べ 各年度末現在)

⑥区立特別支援学級の設置状況

区分		校名	学校数	学級数
固定学級	知的障害	小学校 蔵前小学校 松葉小学校 金竜小学校	3校	7学級
		中学校 柏葉中学校		
通級指導学級	難聴・言語	小学校 黒門小学校	1校	5学級
	難聴	中学校 柏葉中学校	1校	1学級
	情緒障害等	中学校 御徒町台東中学校	1校	1学級
特別支援教室	情緒障害等	小学校 全校 拠点校 平成小学校 谷中小学校 大正小学校 石浜小学校		
合計			7校	18学級

(教育委員会調べ 平成29年5月1日現在)

⑦区立特別支援学級の児童・生徒数推移

○小学校

			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
固定学級	知的障害	(学級数)	6	7	6	6	6	7
		(人数)	37	37	42	43	39	39
通級指導学級	言語障害	(学級数)	3	3	3	4	4	4
		(人数)	49	54	57	66	67	68
	難聴	(学級数)	1	1	1	1	1	1
		(人数)	4	5	5	6	6	10
	情緒障害等	(学級数)	7	8	9	10	12	
		(人数)	63	66	80	80	110	
特別支援教室	情緒障害等	(人数)						147
合計		(学級数)	17	19	19	21	23	12
		(人数)	153	162	184	195	222	264

(教育委員会調べ 各年度5月1日現在)

○中学校

			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
固定学級	知的障害	(学級数)	4	4	4	4	4	4
		(人数)	27	27	27	27	29	25
通級指導学級	難聴	(学級数)	1	1	1	1	1	1
		(人数)	8	6	5	8	8	8
	情緒障害等	(学級数)	1	1	1	1	1	1
		(人数)	4	7	9	8	3	7
合計		(学級数)	6	6	6	6	6	6
		(人数)	39	40	41	43	40	40

(教育委員会調べ 各年度5月1日現在)

(5) 障害者の就労状況

①ハローワーク上野管内での障害者の職業紹介状況

○身体障害者

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
登録者数(人)	700	664	696	706	737
就業者数(人)	454	428	431	433	443
求職中(人)	116	141	166	207	205
保留中(人)	130	95	99	66	89
登録者に占める就労者の率(%)	64.9	64.5	61.9	61.3	60.1

(ハローワーク上野調べ 各年度末現在)

○知的障害者

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
登録者数(人)	269	256	257	269	277
就業者数(人)	205	192	184	192	195
求職中(人)	32	36	47	52	56
保留中(人)	32	28	26	25	26
登録者に占める就労者の率(%)	76.2	75.0	71.6	71.4	70.4

(ハローワーク上野調べ 各年度末現在)

○精神障害者

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
登録者数(人)	265	283	338	388	439
就業者数(人)	94	105	98	112	132
求職中(人)	74	93	160	206	236
保留中(人)	97	85	80	70	71
登録者に占める就労者の率(%)	35.5	37.1	29.0	28.9	30.1

(ハローワーク上野調べ 各年度末現在)

⑧都立・国立特別支援学校の児童・生徒数

○小学生

(単位：人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
都立・知的	13	12	14	21	25	27
都立・肢体	12	12	10	12	12	14
都立・聴覚	3	2	3	4	4	5
都立・視覚	0	0	0	0	0	0
都立・病弱	0	1	0	0	0	1
国立・知的	3	3	2	2	2	1
国立・肢体	1	2	2	0	0	0
国立・聴覚	1	0	0	0	0	0
国立・視覚	0	0	0	1	1	1
他区立・他都道府県立	1	0	0	2	0	1
合 計	34	32	31	42	44	50

(教育委員会調べ 各年度5月1日現在)

○中学生

(単位：人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
都立・知的	16	13	15	14	15	15
都立・肢体	5	10	9	8	6	2
都立・聴覚	0	0	0	0	0	0
都立・視覚	0	0	0	0	0	0
都立・病弱	0	0	0	2	2	1
国立・知的	0	0	1	1	2	2
国立・肢体	0	0	0	2	1	1
国立・聴覚	0	1	1	1	0	0
国立・視覚	1	1	1	0	0	0
他区立・他都道府県立	0	0	1	1	0	2
合 計	22	25	28	29	26	23

(教育委員会調べ 各年度5月1日現在)

## ②台東区障害者就労支援室

### ○就労支援室登録者の就労状況

(単位：人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
登録者	182	194	215	232	255
延べ就職者数	34	17	21	25	36
延べ離職者数	9	11	12	14	11
就労継続者数	94	99	99	104	111

(障害福祉課調べ 各年度末現在)

### ○新規就職者の障害内訳

(単位：人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
身体障害者	4	3	2	3	3
知的障害者	21	7	9	10	13
精神障害者	9	7	10	12	20
合計	34	17	21	25	36

(障害福祉課調べ 各年度末現在)

## ③就労トレーニング実績

就労トレーニングとは、台東区独自の事業で、障害者が区役所等で職場実習を行うことにより、就労意欲の向上を図るものです。

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
延べ実施課数(課)	67	65	44	37	42
延べ日数(日)	137	125	99	86	95
延べ参加者数(人)	397	288	234	146	201
就職者(人)	7	6	4	7	7

(障害福祉課調べ 各年度末現在)

### 3 障害者実態調査結果の概要

本区では、平成 28 年度に、本計画策定の基礎資料として、生活実態及び要望等を把握するための調査を実施しました。

#### <調査の概要>

##### (1) 調査対象者及び対象者数

区分	対象	抽出方法	対象者数
身体障害者	身体障害者手帳所持者	無作為抽出	710 人
知的障害者	療育手帳（愛の手帳）所持者	無作為抽出	100 人
精神障害者	精神障害者保健福祉手帳所持者	無作為抽出	140 人
難病患者	難病医療費等助成の受給者（障害者手帳非所持者）	無作為抽出	130 人
発達障害児	障害児通所支援利用者（障害者手帳非所持者）	無作為抽出	20 人
合 計			1,100 人

##### (2) 調査方法

郵送配付、郵送回収（無記名）

ただし、対象者の約 1 割は職員による訪問配付・回収

##### (3) 調査期間

平成 28 年 9 月 14 日～10 月 7 日

##### (4) 調査票回収数及び回収率

A：対象者数	B：回収数	C：回収率（ $B/A \times 100$ ）
1,100 人	768 人	69.8%

以下に、主な結果についてまとめます。（詳細な結果については、「台東区障害者実態調査報告書」（平成 28 年 12 月）をご覧ください。）



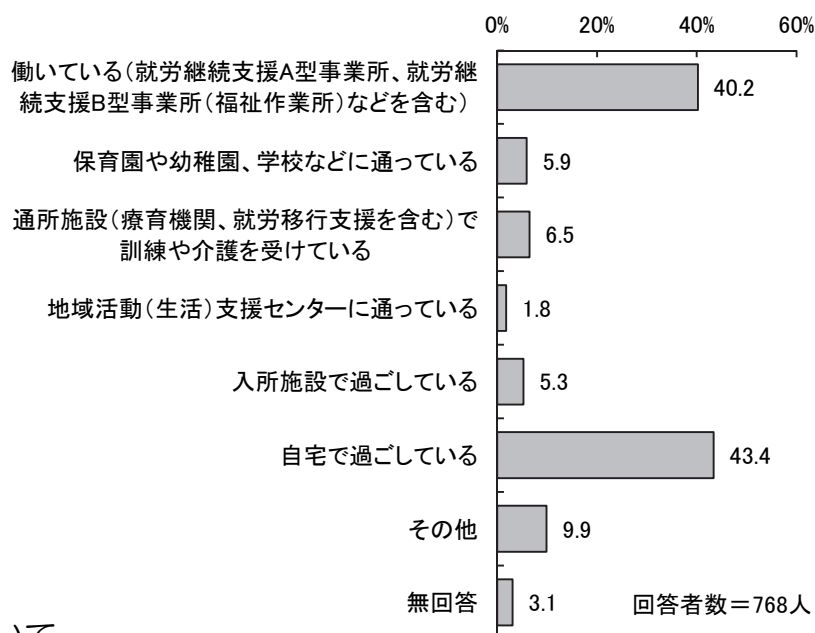
## <調査結果概要>

### (1) 現在の日中の過ごし方

- ・「自宅で過ごしている」が最も高い

問 あなたは現在、平日(月曜日から金曜日)の日中は、主にどのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

現在の日中の過ごし方は、「自宅で過ごしている」が43.4%で最も高く、次いで「働いている(就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所(福祉作業所)などを含む)」が40.2%となっています。

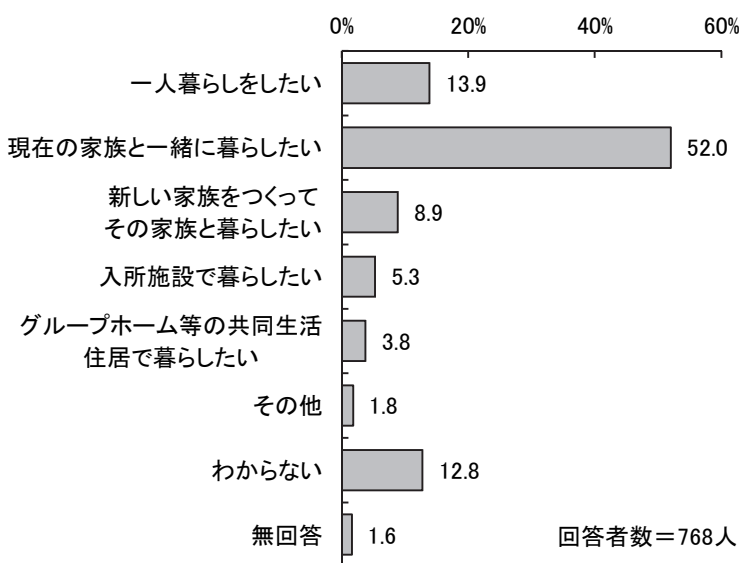


### (2) 将来希望する暮らし方について

- ・「現在の家族と一緒に暮らしたい」が約半数を占める

問 あなたは将来、どのような暮らし方を望んでいますか。(1つに○)

将来希望する暮らし方は、「現在の家族と一緒に暮らしたい」が52.0%と約半数を占めています。

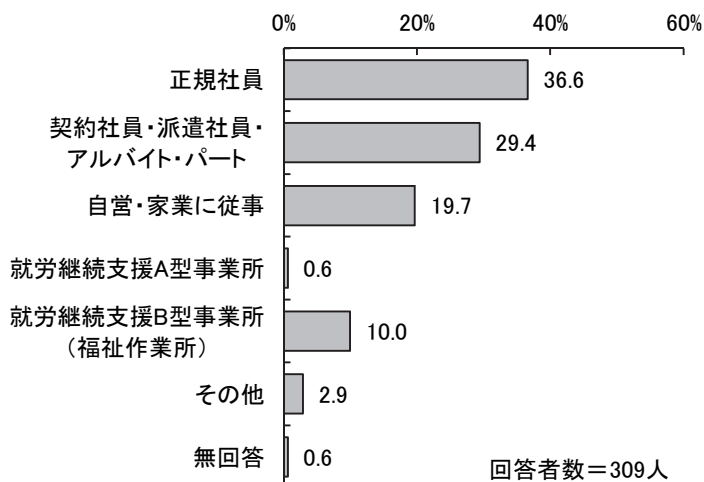


### (3) 就労状況

- ・「正規社員」が最も高い

問 どのような働き方をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

働いている人の働き方は、「正規社員」が 36.6%で最も高く、次いで「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」が 29.4%、「自営・家業に従事」が 19.7%となっています。



### (4) 希望する日中の過ごし方

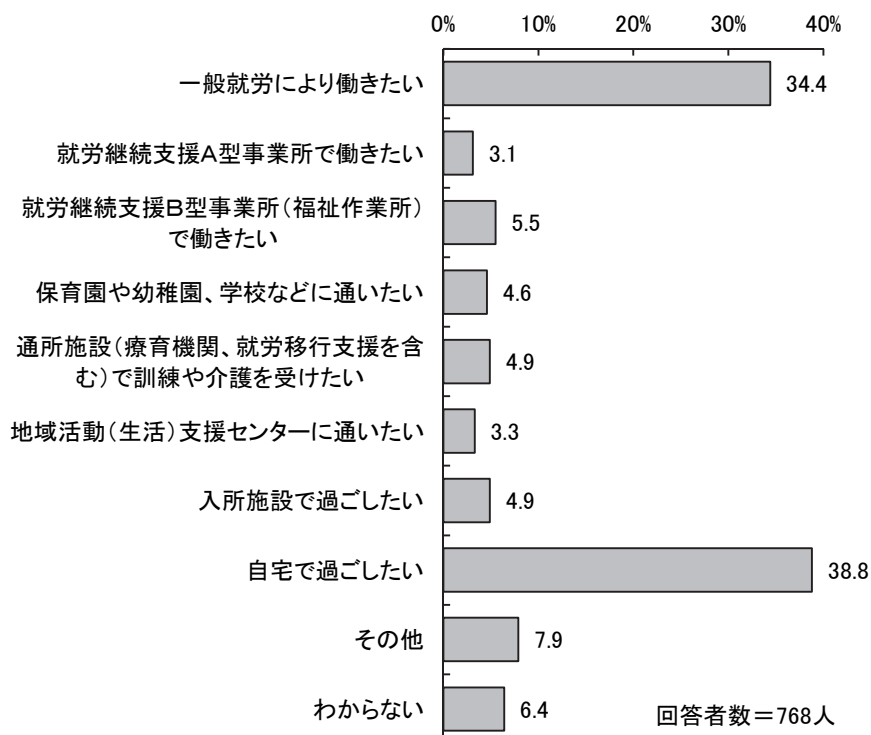
- ・一般就労などにより『働きたい』が最も高い

※『働きたい』は一般就労、就労継続支援 A 型事業所、就労継続支援 B 型事業所で働きたいの合計

問 今後、平日(月曜日から金曜日)の日中は、主にどのように過ごしたいですか。

(あてはまるものすべてに○)

希望する日中の過ごし方としては、一般就労などにより『働きたい』の合計が 4 割以上と高くなっています。



## (5) 生活の中での悩みごと

- ・「経済的なこと」と「将来の援助（介護）のこと」が中心

問 悩みごとや困ったことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

生活の中での悩みごとは、「経済的なこと」29.9%、「将来の援助（介護）のこと」27.7%、「医療のこと」23.3%が上位3位であり、2割以上からあげられています。次いで、「就労のこと」17.4%、「住宅のこと」16.1%の順で続いています。

障害別にみると、精神障害者及び高次脳機能障害者は、他の障害に比べて『悩みごとがある』人の割合（100%から「特にない」「無回答」を除いた割合）が高くなっています。

身体障害者は「将来の援助（介護）のこと」、知的障害者は「金銭管理のこと」、精神障害者、高次脳機能障害者及び発達障害児（者）は「経済的なこと」、難病医療費等助成利用者は「医療のこと」をあげた人の割合が最も高くなっています。

（単位：％）

	回答者数(人)	経済的なこと	将来の援助(介護)のこと	医療のこと	就労のこと	住宅のこと	必要な情報を得ること	趣味や生きがいに関すること	金銭管理のこと	福祉サービスの申請・契約のこと	家庭生活のこと	交通機関のこと	リハビリのこと	
全体	768	<b>29.9</b>	27.7	23.3	17.4	16.1	13.3	13.0	11.7	11.3	10.7	9.5	8.9	
障害別	身体障害者	509	27.5	<b>28.7</b>	22.2	14.7	16.7	12.6	11.8	7.7	10.0	9.6	11.6	10.6
	知的障害者	99	25.3	26.3	25.3	16.2	11.1	20.2	17.2	<b>30.3</b>	17.2	13.1	8.1	8.1
	精神障害者	112	<b>55.4</b>	26.8	24.1	32.1	26.8	17.9	24.1	20.5	19.6	24.1	10.7	8.0
	難病医療費等助成利用者	128	31.3	29.7	<b>34.4</b>	18.0	20.3	11.7	13.3	10.2	15.6	9.4	7.8	10.2
	高次脳機能障害者	6	<b>66.7</b>	50.0	16.7	33.3	33.3	33.3	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0
	発達障害児(者)	23	<b>43.5</b>	17.4	4.3	34.8	8.7	17.4	17.4	21.7	4.3	13.0	8.7	8.7

	回答者数(人)	療手帳・受給者証・医療証等の管理のこと	子どものこと	社会参加のこと	結婚のこと	現在の援助(介護)のこと	友達や相談相手に関すること	地域の理解を得ること	教育・学習のこと	その他	特にない	無回答	『悩みごとがある』	
全体	768	7.4	7.3	7.2	7.0	6.4	6.4	5.2	4.3	4.0	27.2	4.6	68.2	
障害別	身体障害者	509	4.9	7.9	6.5	6.1	6.3	5.1	3.9	2.0	3.5	27.9	4.7	67.4
	知的障害者	99	18.2	1.0	10.1	6.1	12.1	11.1	10.1	13.1	3.0	27.3	7.1	65.6
	精神障害者	112	15.2	10.7	11.6	13.4	8.9	16.1	11.6	4.5	7.1	16.1	3.6	80.3
	難病医療費等助成利用者	128	10.2	7.0	5.5	7.8	7.0	4.7	6.3	1.6	3.1	26.6	3.1	70.3
	高次脳機能障害者	6	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	83.3
	発達障害児(者)	23	4.3	13.0	26.1	17.4	4.3	30.4	13.0	34.8	13.0	26.1	0.0	73.9

## (6) 悩みごとの相談先

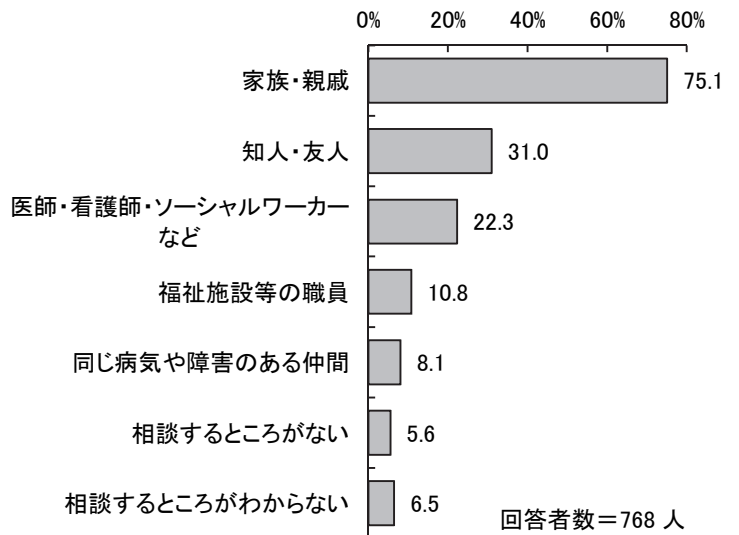
- ・専門機関よりも「家族・親戚」と「知人・友人」が高い

問 悩みや困ったことを相談するのは誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

悩みごとの相談先は、「家族・親戚」75.1%が最も高く、次いで、「知人・友人」31.0%と、専門機関よりも身近な人が高い傾向がみられます。

「相談するところがない」は5.6%、「相談するところがない」は6.5%でした。

※グラフは上位5回答と、「相談するところがない」・「相談するところがない」のみを掲載しています。



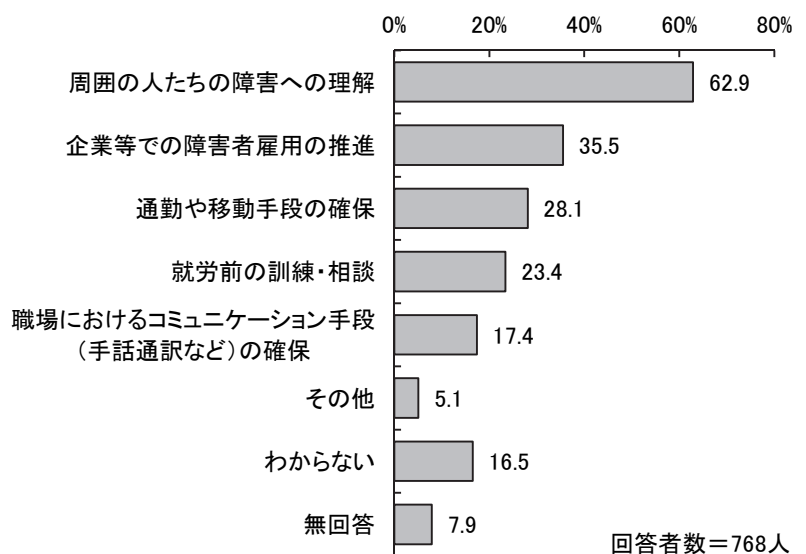
## (7) 働きやすい環境にするために必要なこと

- ・「周囲の人たちの障害への理解」が高い

問 働きやすい環境にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

働きやすい環境にするために必要なこととしては、「周囲の人たちの障害への理解」62.9%が最も高くなっています。次いで、「企業等での障害者雇用の推進」35.5%、「通勤や移動手段の確保」28.1%の順となっています。



(8) 障害福祉サービスの利用状況と、利用していない理由

- 利用していない人の2割の人が「制度を知らなかった」

問 あなたが現在、利用している障害福祉サービスはありますか。(1つに○)

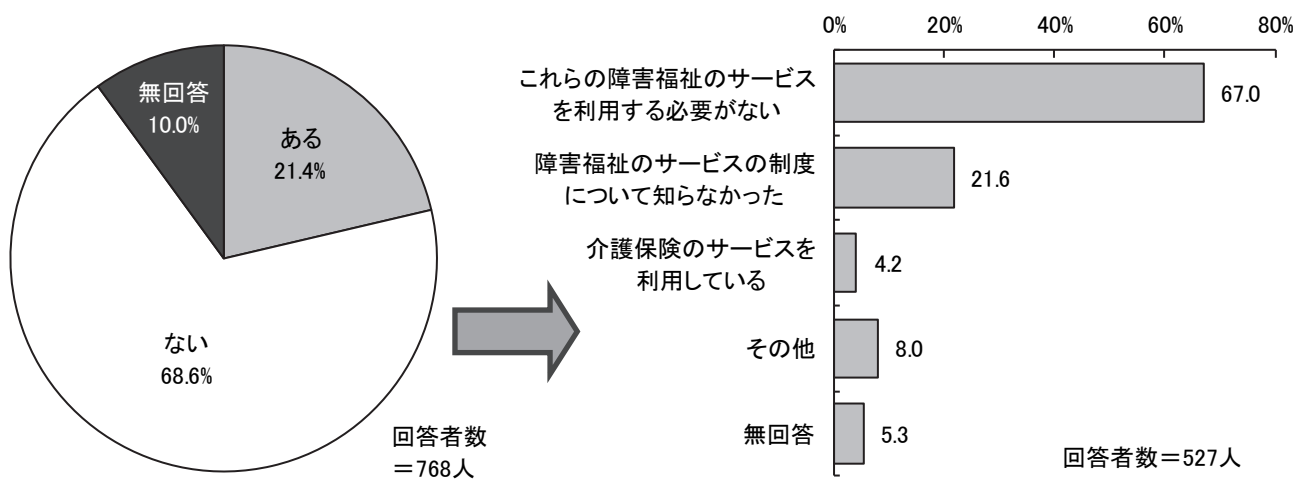
上記の問いで、「2. ない」に○をした方におたずねします。

問 利用していない理由は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

障害福祉サービスの利用状況について、「ある」は 21.4%と、おおよそ 5 人に 1 人が利用していると回答しており、前回調査より減少しています。

「ない」(68.6%) と回答した人のサービスを利用していない理由としては、「これらの障害福祉のサービスを利用する必要がない」が 67.0%、次いで「障害福祉のサービスの制度について知らなかった」が 21.6%となっています。

【利用しているサービスの有無】 → 【「利用しているサービスが『ない』」人の理由】



(9) 権利擁護について

- 「内容を知っている」割合は、最も高い成年後見制度でも2割程度にとどまる

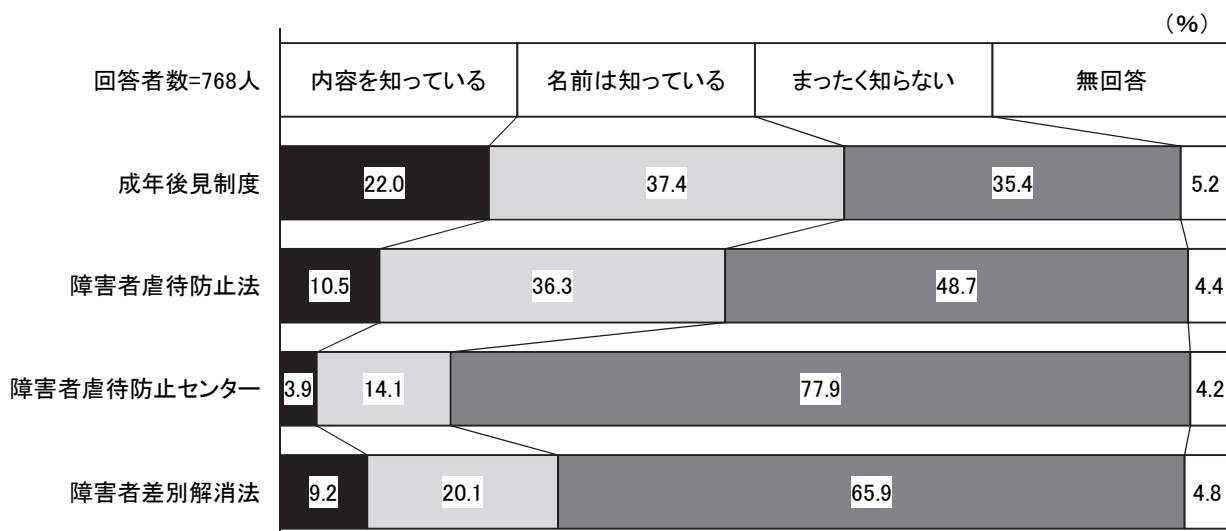
問 あなたは、知的障害、精神障害、認知症などにより、判断能力が十分でない方の権利を守る、「成年後見制度」について知っていますか。(1つに○)

問 障害者の尊厳を守り、自立や社会参加の妨げとならないよう虐待を禁止するとともに、その予防と早期発見のための取り組みなどを定めた「障害者虐待防止法」が、平成24年10月に施行されました。  
あなたはこのことを知っていますか。(1つに○)

問 「障害者虐待防止法」の施行をうけ、区では虐待防止に関する24時間対応の相談や一時的な保護の提供などを行う「障害者虐待防止センター」を開設しました。  
あなたはこのことを知っていますか。(1つに○)

問 平成28年4月に施行された「障害者差別解消法」では、障害者に対する「不当な差別的取扱い」と「合理的配慮の不提供」が禁止されています。あなたはこのことは知っていますか。(1つに○)

障害者の権利擁護をめぐる、成年後見制度、障害者虐待防止法、障害者虐待防止センター、障害者差別解消法のそれぞれの認知度について、「内容を知っている」人は、成年後見制度が22.0%で2割を超えたものの、他の項目ではいずれも1割程度となっています。



(10) 災害時に必要とするもの

- ・「医療面での配慮」と「避難所への誘導」が中心だが、障害による特性がみられる

問 災害(地震など)が発生したときに、あなたが必要とするものは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

災害時に必要とするものとしては、「医療面での配慮」50.1%、「避難所への誘導」40.8%、「災害時の安否確認」35.5%が上位3位にあげられています。

障害別では、身体障害者全体と、精神障害者及び難病医療費等助成利用者は「医療面での配慮」が最も高くなっています。身体障害者の種類別にみると、視覚障害及び肢体不自由の人は「避難所への誘導」、聴覚障害の人は「文字や音声による情報提供」、内部障害の人は「医療面での配慮」がそれぞれ最も高くなっています。

知的障害者では「避難所への誘導」が第1位となっています。

発達障害児(者)は「避難所への誘導」「災害発生時の連絡」がともに第1位となっています。

(単位:%)

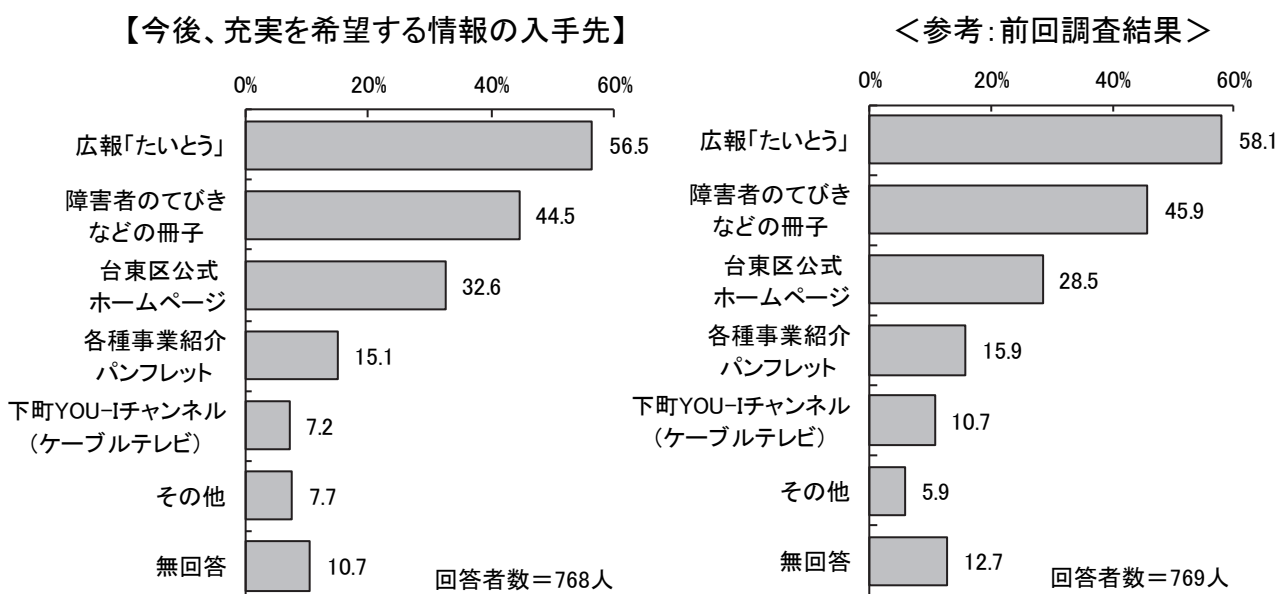
	回答者数(人)	医療面での配慮	避難所への誘導	災害時の安否確認	避難所設備 障害者(児)に配慮した	災害発生時の連絡	備蓄品の確保 障害者(児)に配慮した	文字や音声による情報 提供	特にな い	その他	無回 答	
全 体	768	<b>50.1</b>	40.8	35.5	33.7	33.2	28.5	15.9	14.3	6.0	4.4	
障害別	身体障害者	509	<b>50.1</b>	39.5	31.8	34.6	30.5	29.9	16.9	15.9	6.5	4.1
	視覚障害	40	40.0	<b>42.5</b>	37.5	27.5	30.0	27.5	42.5	22.5	7.5	0.0
	聴覚障害	47	36.2	44.7	38.3	34.0	40.4	29.8	<b>68.1</b>	4.3	6.4	4.3
	肢体不自由	237	45.1	<b>52.3</b>	35.4	45.6	34.6	35.4	12.7	18.1	6.8	3.4
	内部障害	151	<b>74.2</b>	24.5	28.5	29.8	25.2	31.1	6.6	9.3	6.6	4.0
	その他	51	<b>35.3</b>	27.5	29.4	23.5	27.5	17.6	9.8	23.5	9.8	9.8
	知的障害者	99	40.4	<b>60.6</b>	54.5	46.5	43.4	42.4	18.2	7.1	8.1	4.0
	精神障害者	112	<b>61.6</b>	47.3	45.5	39.3	36.6	33.0	17.9	9.8	8.9	5.4
	難病医療費等助成利用者	128	<b>68.8</b>	37.5	32.8	30.5	37.5	25.8	11.7	8.6	6.3	5.5
	高次脳機能障害者	6	50.0	<b>66.7</b>	50.0	<b>66.7</b>	<b>66.7</b>	33.3	<b>66.7</b>	0.0	33.3	0.0
	発達障害児(者)	23	21.7	<b>34.8</b>	30.4	30.4	<b>34.8</b>	17.4	17.4	26.1	4.3	8.7

(11) 今後、充実を希望する情報の入手先

- ・「広報たいとう」が中心だが、「台東区公式ホームページ」に伸びがみられる

問 障害福祉に関する情報の入手方法として、今後、充実を希望するものは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

今後、充実を希望する情報の入手先は、「広報たいとう」が 56.5%と、前回同様に最も高くなっています。「台東区公式ホームページ」については前回より 4.1 ポイント増加しています。



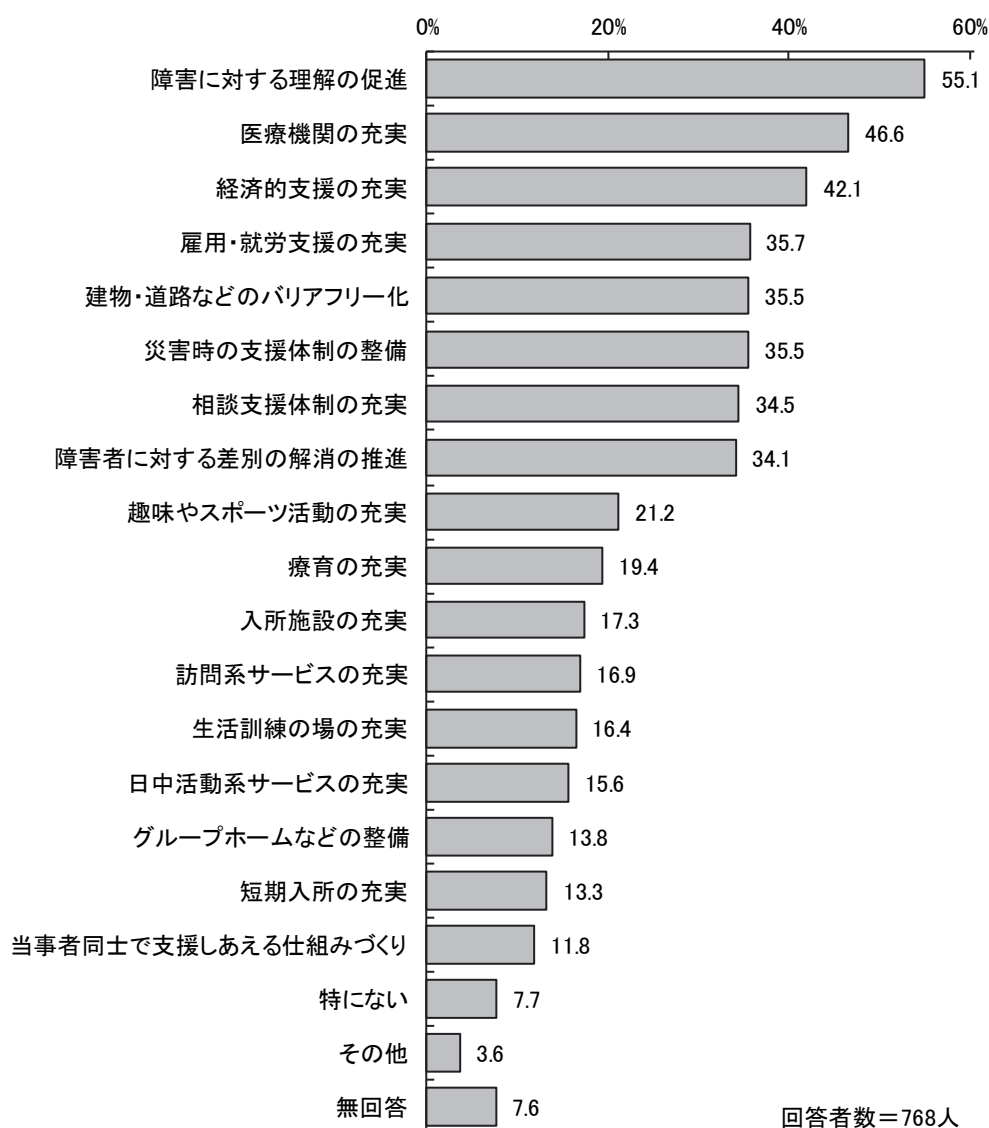


## (12) 地域で安心して暮らすために重要と思う施策

- ・「障害に対する理解の促進」が半数を超える

問 障害者(児)が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

地域で安心して暮らすために重要と思う施策としては、「障害に対する理解の促進」55.1%、「医療機関の充実」46.6%、「経済的支援の充実」42.1%、「雇用・就労支援の充実」35.7%、「建物・道路などのバリアフリー化」「災害時の支援体制の整備」各35.5%が上位となっています。



<障害別にみたポイント>

- ・身体障害者の上位3位は、「障害に対する理解の促進」「医療機関の充実」「建物・道路などのバリアフリー化」となっています。
- ・知的障害者の上位3位は、「障害に対する理解の促進」「経済的支援の充実」「相談支援体制の充実」となっています。
- ・精神障害者及び難病医療費等助成利用者の上位3位は、「障害に対する理解の促進」「経済的支援の充実」「医療機関の充実」となっています。
- ・高次脳機能障害者の上位3位は、「障害に対する理解の促進」「医療機関の充実」「災害時の支援体制の整備」となっています。
- ・発達障害児（者）の上位3位は、「障害に対する理解の促進」「経済的支援の充実」「雇用・就労支援の充実」「療育の充実」となっています。
- ・知的障害者は「グループホームなどの整備」「入所施設の充実」などが、それぞれ他の障害に比べて高くなっています。

(単位:%)

		回答者数(人)	障害に対する理解の促進	医療機関の充実	経済的支援の充実	雇用・就労支援の充実	建物・道路などのバリアフリー化	災害時の支援体制の整備	相談支援体制の充実	差別的解消の推進	障害者に対する活動の充実	趣味やスポーツの充実	療育の充実
全体		768	<b>55.1</b>	46.6	42.1	35.7	35.5	35.5	34.5	34.1	21.2	19.4	
障害別	身体障害者	509	<b>53.8</b>	47.9	38.9	33.0	40.9	39.1	31.0	31.8	19.8	15.7	
	知的障害者	99	<b>57.6</b>	43.4	45.5	39.4	24.2	36.4	44.4	40.4	32.3	30.3	
	精神障害者	112	<b>63.4</b>	53.6	58.9	43.8	23.2	37.5	45.5	47.3	31.3	25.0	
	難病医療費等助成利用者	128	<b>57.0</b>	47.7	44.5	35.2	41.4	28.9	34.4	33.6	18.8	20.3	
	高次脳機能障害者	6	<b>83.3</b>	<b>83.3</b>	50.0	66.7	16.7	<b>83.3</b>	50.0	50.0	16.7	16.7	
	発達障害児（者）	23	<b>82.6</b>	43.5	65.2	65.2	26.1	34.8	56.5	60.9	34.8	65.2	

		回答者数(人)	入所施設の充実	訪問系サービスの充実	生活訓練の場の充実	日中活動系サービスの充実	グループホームなどの整備	短期入所の充実	あえる仕組みづくり	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	特になし	その他	無回答
全体		768	17.3	16.9	16.4	15.6	13.8	13.3	11.8	7.7	3.6	7.6	
障害別	身体障害者	509	16.5	19.3	14.3	16.5	10.4	11.8	12.0	8.1	3.9	7.1	
	知的障害者	99	33.3	16.2	30.3	26.3	38.4	25.3	20.2	7.1	6.1	4.0	
	精神障害者	112	20.5	17.0	18.8	19.6	19.6	17.9	15.2	5.4	3.6	7.1	
	難病医療費等助成利用者	128	16.4	16.4	18.0	10.2	12.5	15.6	10.2	5.5	1.6	11.7	
	高次脳機能障害者	6	16.7	16.7	33.3	33.3	16.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	
	発達障害児（者）	23	21.7	17.4	34.8	21.7	26.1	21.7	30.4	4.3	0.0	4.3	

### (13) 障害者実態調査の分析結果

- 現在の日中の過ごし方については、「自宅で過ごしている」が最も高くなっています。
- 将来の暮らし方については、「現在の家族と一緒に暮らしたい」が最も高くなっています。
- 就労状況については、「正規社員」が最も高くなっています。
- 将来の日中の過ごし方については、一般就労などにより『働きたい』が最も高くなっています。
- 生活の不安としては、「経済的なこと」と「将来の援助（介護）のこと」が高くなっており、家族がいなくなった後の不安がみられます。
- 悩みごとの相談については、「家族・親族」や「知人・友人」が中心です。
- 働きやすい環境については、「周囲の人たちの障害への理解」が半数以上で、理解がまだ十分には進んでいないことがうかがえます。
- 障害福祉サービスを利用していない方の理由としては、2割程度の方が「制度を知らない」ことをあげており、障害施策全般の情報提供が課題であると言えます。
- 権利擁護をめぐる制度の認知度について、「内容を知っている」、「名前だけ知っている」の合計は、成年後見制度では6割程度と、ある程度の認知ができています。一方、障害者虐待防止法では半数以下、障害者差別解消法は約3割となっており、今後より一層の周知を図ることが必要です。
- 特に障害者差別解消法の認知度は、「内容を知っている」人は1割未満、「名前は知っている」人も2割程度となっており、今後の周知が必要です。
- 災害時に必要とするものについては、「医療面での配慮」と「避難所への誘導」が中心ですが、障害による特性がみられます。
- 情報の入手先の充実を期待されている手段は、「広報たいとう」が半数を超えて、前回調査と同様に、最も高くなっています。また、「台東区公式ホームページ」については前回より意向が高くなっており、手段の充実が求められています。
- 地域で安心して暮らすために重要と思う施策については、
  - ・「障害に対する理解の促進」
  - ・「医療機関の充実」
  - ・「経済的支援の充実」
  - ・「雇用・就労支援の充実」
  - ・「建物・道路などのバリアフリー化」
  - ・「災害時の支援体制の整備」に、回答が集まっています。